

No.189 会社訪問

代表取締役社長 濱地 信 氏



株式会社クライミング

会社プロフィール

代 表 者：代表取締役社長 濱地 信

本 社：〒835-0011 福岡県みやま市瀬高町松田 630-1
TEL：0944-63-4840（代） FAX：0944-64-1004

事 業 所：みやま工場、筑後工場、新宮工場

創 業：1937年（昭和12年）

設 立：1960年（昭和35年）2月29日

資 本 金：3,200 万円

従 業 員：74 名

事業内容：各種ガラス製品の製造・販売（ガラス製体積計・理化学分析用
ガラス器具、工業用ガラス製品、板ガラス、各種特殊ガラス等）、
科学機器・理化学用消耗品の販売、化学工業薬品の製造販売

U R L：https://www.climbing-web.com

聞き手：野村篤史（広報副委員長）、岡田康弘（編集長）、梅垣喜通（参与）取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ(株)

理化学用、工業用、特殊ガラスなど、「ガラスのコンビニ」として、独自の
高度な技術で全国のニーズに応える福岡のガラスメーカー・理化学商社

御社の事業内容についてお聞かせください。

濱地 弊社は福岡県の南部、久留米市と大牟田市の間に位置するみやま市に本社を置き、「ガラスのコンビニ」というメッセージを掲げ、理化学分析関係ガラス製品、工業用ガラス、建築やデザイン系の特殊ガラスなど、幅広いガラス製品を製造販売しています。

また、薬品の製造、さらに理化学関連消耗品の販売も行っています。製造部門と商社部門が柱です。製造部門は、みやま工場と筑後工場、新宮工場の3工場で、設備の9割ほどは自社で開発したものです。ガラス製体積計を生産する工場設備は市販されているものがないに等しく、自社で開発された製造設備となっています。この点が弊社の特色であり、強みでもあります。製品の製造だけでなく開発も行っていて、日本全国に広がるお客様から、ガラス製造の規模や品質で高い評価をいただいています。

製造しているガラス製品について、お聞かせください。

濱地 理化学系では、メスシリンダーをはじめとするガラス製の体積計、冷却器、フラスコなどの理化学分析用のガラス器具があり、これらは製造部門の主力製品でもあります。こうした製品は、直径2ミリから250ミリほどのガラ

ス管をチェコやドイツなどから仕入れて、切る、膨らませる、曲げる、繋げるなどの加工をしています。また、冷却器やフラスコのご注文についても大半がオーダーメイドで生産ロットが少ないのですが、そうしたご要望についても、熟練した職人が1個から手作業で、弊社の設備を活用して製造しています。

そして産業用では、照明用のガラス管やコーヒーマーカーに入るガラス部品を手掛けています。さらに、板ガラス加工、特殊ガラスの製造も行っています。サンドブラスト加工という技法を使いガラスに文字や絵柄を彫るなどの加工もでき、大型のものから小型のものまで様々なデザインガラスを製造することができます。例えばデパート用の装飾ガラス、贈答用の記念品、ガラスの酒瓶やJR九州の車輛にも弊社製品をお使いいただいています。

JR九州の在来線では、7人掛け座席などにある仕切り板で、これはアクリル板の材料にサンドブラスト加工で砂を吹き付けて模様を施しています。さらに観光列車ではドアのガラス部分に文字や模様を加工したものをお使いいただいています。色々なガラス製品は、弊社のホームページでも写真と動画で紹介しているので、ぜひご覧いただきたいと思います。

理化学用ガラス分析機器

筑後工場にて理化学用ガラス器具を生産、ご要望に合わせて1個より製造、破損ガラスの修理なども可能です。



デザインガラス

「表情豊かなガラスを創る」をテーマに、光に調和するガラス彫刻技術を活かしたオリジナル品の製作。

フロストガラス・ミラー

エッチングガラス・ミラー



JR九州の座席仕切り板



大分 西光寺納骨堂



御社のホームページには、美しいガラス製品が様々ありますが、ガラス模様はプリントではないわけですね。

濱地 そうです。先ほど話したサンドブラストという技法で、簡単に言うとガラスの表面の部分进行削ることで模様を生み出しています。例えば、一升瓶の表面を加工して還暦のお祝い品、少し変わったものだと、お寺の納骨堂に置くお釈迦様の姿を彫ったガラスを作ったこともございます。濃淡など芸術的な風合いを要するデザインに対して

も、職人の手作業でガラスを深く彫ったり、浅く彫ったりすることで、絵を描くような感じでお応えができます。

また、ガラス以外では薬液を製造しています。主に鉄鋼業界向けで、ステンレス鋼を錆び難くする不動態化处理のための薬液や、溶接部にできる“焼け”と呼ばれる黒ずみを除去する薬液を製造しています。

そしてもう1つの商社部門は、科学機器や理化学系の消耗品を仕入れて販売する、卸の業態になります。

ガラス体積計の生産設備自体が他にはあまりないということ、非常にシェアが高いということでしょうか。

濱地 はい。自社設備を持っているということが強いと思います。現在の従業員は74人ですが、そのほとんどが製造担当で、営業を専門にしているのは6人程です。また海外の取引は、販売よりも仕入れの方が多いです。

創業から現在に至る経緯をお聞かせください。

濱地 1932(昭和7)年、創業者である私の曾祖父が、当時の福岡県八幡市(現北九州市)で株式会社濱地商店を創業し、5年後の1937(昭和12)年に濱地製作所と名前を変えました。私は世代として4代目ですが、順番で言うと曾祖父-祖父-父-叔父と続き、5番目の社長になります。

創業者はもともと外国航路船の機関長でした。海外を巡る中で、工業先進国だったドイツで目にした精緻な計測器具に非常に興味を持ったのが、創業のきっかけだったようです。

当時の日本は、竹製のものさしや木製の升を使っていた頃で、これからの工業発展には正確に測ることができる器具が必要だと考え、退職金を元手に自宅で創業したそうです。最初は金属製の度量衡器やガラス体積計など、要は測るもの全般を製作していたそうです。

その後に第二次世界大戦が始まり、軍の命令で北九州の八幡から現在の本社があるみやま市へ疎開、つまり移転します。八幡から高速道路を使って2時間ほどのところ、八幡など北九州の地域は軍需工場が多かったので、空襲が激しく、ずいぶん工場が消失したそうです。

そんな混乱を経て終戦となりますが、唯一、疎開していた先のガラス体積計の仕事だけが残っていて、そこから立て直しを図っていったと聞いています。つまり、ガラス体積計は創業から現在まで、88年間ずっと製造しています。

経営資料

それから祖父、そしてお父様と経営を引き継がれていったんですね。

濱地 祖父は終戦直後に創業者から社長を引き継ぎました。祖父が62歳と早逝した事情があり、父親は38歳で社長に就任しています。父が社長の時の2017(平成9)年に、同じ理化学用のガラスを作っていた山口理研と合併して、現在の株式会社クライミングに社名変更しました。

これまで濱地社長が印象に残っている出来事があれば、お聞かせください。

濱地 社長に就任して3年目になる頃、人事制度の見直しを行い、社員教育に力を入れ始めました。具体的に言うと、制度面では10段階のグレード制を導入して、賞与の評価項目について個人目標を設定することを行いました。また、管理職の皆さんに半期ごとに社員と面接をする仕組みをとり入れ、社内コミュニケーションを密にするようにしてもらいました。社員教育については、面談にあたる管理職への研修など、面談技術の向上のための施策を導入し、一般の社員の皆さんには、社内コミュニケーションが大事になるので、それを円滑に行うことができるように、伝え方や働き方の研修等を行うようにしてきました。

私が社長になってちょうど10年目の今では、もう管理職の皆さんがそれぞれ部門の責任を持って運営してくれ、また、社員も1人ひとりの目標の達成を気掛けながら日々頑張ってくれる社内風土ができていて感じられ、非常に嬉しく思っています。この10年で会社全体の底上げが出来たような実感を持ちます。

経営者として大変困難だった出来事があればお聞かせください。

濱地 社長に就任する前ですが、2008年から2009年頃のリーマンショックの時期が一番経営上の困難を感じました。当時、私は常務取締役で、工場の生産管理を全て任されていました。

当時は、注文が減り生産調整する日々が続き、本当に在庫がなくなりました。理化学機器業界は景気の影響を受け難いと言われてきたのに、ここまで状況が悪化するのかと深刻さを感じました。それをどうやって乗り切ったのかと言いますと、まさに苦境にあったのですが、まず休業するよりもとにかく社員教育を進めて様々な面の

改善をしようと考えました。1か月の3分の1ほどを教育にあてていたと思います。具体的には製造原価などのコスト面、また、当然技術面が大事になるので、日頃携わっていない仕事に取り組んでもらうなどしてスキル向上を行いました。資金面は、その時に国から出ていた雇用調整助成金などを活用しながら、何とか乗り切っていった感じです。このように苦しい中でも、社員の解雇をすることなく、雇用を守れるようにやりくりしました。

また、不況でも休業とせずに教育を続けたことは、社員が会社に出てきてやるべきことがあるということでもモチベーションを保つのに有用だったと思います。そうして乗り越えた後、教育の成果が形として現れ、効率的にも仕事の質的にも色々な面でプラスに向いて現在に至っていると思います。

御社の経営方針や経営理念をお聞かせください。

濱地 経営理念は「製品、サービス、人間力で世の中のお役に立つ会社、世の中を変えられる会社を目指します。そして全社員の人間力と生活の向上を追求し続けます」としています。

経営理念は私が社長に就任した後に、改めてこのように定めました。実は創業者が「会社は、世の中のお役に立たねばならぬ」ということを口癖のように言っていたそうです。“世の中のお役に立つ”ということをまず掲げ、そこに“世の中を変えられる”というキーワードに加えて経営理念にしました。そして、社員全員の人間力、人間性が上がるということ、そして良い生活ができるようにという思いは、経営する人間として常に持っているつもりです。

現在の課題はございますか。

濱地 課題は、経営者の多くの方が感じられているところだと思いますが、人材問題です。ガラスの加工はどうしても熟練の技術が必要です。加工技術や製造設備の段取りなどの調整など、習得に10年前後を要します。その人材確保、指導育成をどう行っていくかが一番の課題です。そのことを考えても、若い人が長く、楽しく、面白みを持って仕事に取り組めることが大事なので、若い社員が目の前の仕事をするだけでなく、そこを離れて勉強ができたり、ちょっと気楽に考えられる時間を作ってあげられるような環境づくりを考えています。

経営資料

また、貴重な人材は何よりも今いる社員なので、長く生き生きとした気持ちで勤めてくれるように、社員の健康面などには非常に気をつけています。インフルエンザの予防接種を会社負担で社員が無料で受けられるようにしました。また、「オフィスで野菜」という取り組みを導入して、ランチ時に野菜を100円で提供して、安価に食べられる取組などを行っています。会社としては健康経営の優良法人としての認定を5～6年ほど取得しています。

今後のビジョンや事業目標をお聞かせください。

濱地 「ガラスのコンビニ」が経営ビジョンです。ガラスのことなら業務用から個人用、工業用、理化学用の実験の専門的な製品でも何でもできます、ということに向けた取り組みをさらに広げていきたいと思っています。

最近手がけたちょっと変わったものでは、「よなよなエール」というクラフトビール用の「ゆっくりビアグラス」という、砂時計のような形のグラスを作らせていただきました。飲む時に、砂時計のように少量ずつしかビールが出てこないの、ゆっくりと味わってお飲みいただけるということです。もともと他の業者が作っていたのですが、形状が特殊なので1日に2～3個しか製造できていなかったそうで、弊社に問い合わせが入ったのです。このグラスはメスフラスコを向かい合わせにして繋ぎ合わせたような形に似ていますが、弊社では元々メスフラスコを作っていたので、特段の苦労もなく製造できます。現在、毎月200～300個の注文をいただき、製造しています。

本社がある福岡県みやま市の土地柄や地域でのガラス産業について、ご紹介いただけますか。

濱地 久留米市の南部、大牟田市の北部という熊本県に近い場所に位置し、2007年に3つの町が合併して誕生した市です。「九州に邪馬台国があったのではないか」という説がありますが、その場所がみやま市のあたりです。産業自体は農業野菜がメインで、セロリや長なすが有名です。工業系の会社は、お隣の大牟田にコンビナートがたくさん作られてきた背景があるので、そちらの方が多いのではないかと思います。

この地域というか、九州のガラス産業について、個人的な推測として感じていることを少しお話させていただくと、大都市近辺のガラス加工業社が数人規模である場合が多

いのに対し、九州では弊社のように企業規模で行っている業者がいくつもあります。それは、“周りに頼める業者がないから自分たちで何でもやらなくてはいけない”という事情があったのではないかな、と思います。都会のように他業者と分業ができないわけで、自分達でやってきた結果が、今も残るそれなりの規模の企業体につながっているのではと想像しています。

ここからは、濱地社長の個人的なことを伺います。座右の銘や愛読書などはございますか。

濱地 「努力に勝る天才なし」という言葉が好きです。

小学6年生の頃に初めて知ったと思います。正直言うと、努力が好きだったわけではありませんが、結局努力をしなければ夢や目標は達成できないと気づかされるようになりました。若い頃にそう感じるようになり、ずっと心に刻みながら生きています。スポーツその他で活躍する人などが、よく“天才”ととりあげられますが、絶対に大変な努力をしてきたわけで、私としては、「この人はどのような努力をしてきたのだろうか」とを思います。

読書は、以前は本当に本を最後まで読み切ったことがないほどでしたが、31歳の時にそれではいけないと自覚させられることがあり、今は乱読するような感じで本を読んでいます。愛読書と言えるほどのものはありませんが、カーネギーの「人を動かす」などは、時々読み返します。

余暇に楽しまっている趣味はございますか。

濱地 一番の趣味はゴルフです。7年程前、ご縁があってゴルフ場のメンバーになり、今は競技のゴルフにも出場しながらやっています。会社の経営とゴルフは、なかなか思い通りにいかないことや、何か対策を打っても効果がすぐには出ずに、時間が経ってからいい効果が出るといったようなことなど、似ていることが多いと感じます。

協会へのご意見やご要望などがあればお願いします。

濱地 父が九州科学機器協会の理事長を10年間させていただき、今は私が会計理事を仰せつかっています。会員企業の諸先輩方々には、昔からアドバイスなどをいただきまして、大変お世話になりましたので、私もこれから微力ではありますが、協会の発展のために力を尽くしていきたいなと思っている所存です。どうぞよろしくお願いします。